

# みんなでやらいや!

## ～まちづくり活動報告～



### 「まちづくり活動報告」連載開始

当コーナーでは、集落や旧小学校区など地域でまちづくりに取り組んでいる様々な団体・グループの活動を紹介します。本号では大山町の集落・地域の状況と大山町のまちづくりの取り組みを紹介します。

## 1. 私たちの地域の状況

### これからの人口の動き

本町では少子高齢化や未婚晩婚化、長年続いてきた都市への人口流出などにより、地域を支える「担い手」が大きく減ることが心配されます。

現在、本町の人口は約1万5千人（国勢調査ベース）ですが、約20年後の平成42年（2030年）には約1万2千人まで減ることが予想されています（図表①参照）。特に、「担い手」である生産年齢人口（15～64歳）が約半分まで減ることが予想されています。

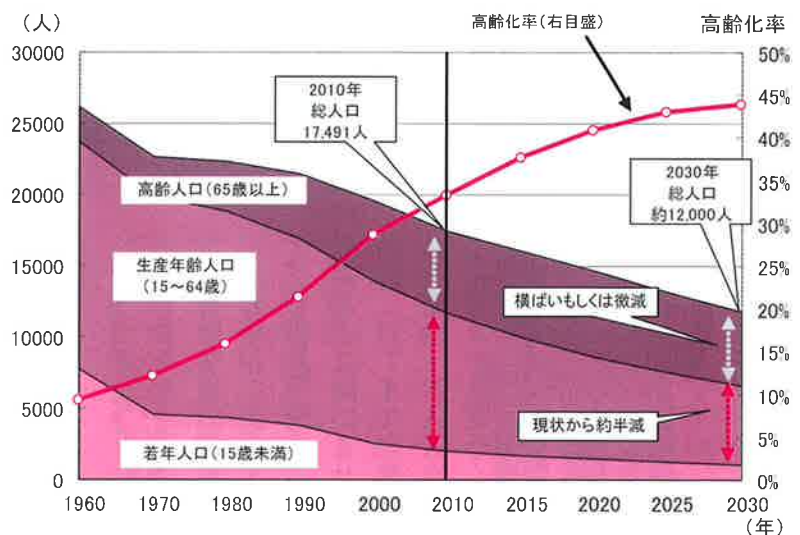
かつての高度経済成長期では4～6人の「担い手」で1人の高齢者を支えていたのが、20年後には「1人の担い手が1人の高齢者を支える」、いわば「肩車型」の時代が到来します。ただし、高齢人口は横ばいから減少に転じる見込みです。

これを旧小学校区ごとにとみると、各地区とも生産年齢人口の減少が著しく、地区によっては半減以上、また、15歳未満の子どもがほとんどいなくなる地区もでてくるのが予想されます（図表②参照）。また、個々の集落単位で見れば、もっと厳しいところも出てきます。

### 担い手が少なくなると?

このように「担い手」や次世代を担う子どもが減ることで、様々な問題が深刻化することが懸念されます。

例えば、これまで集落で行ってきた「祭り」



図表① 大山町の人口の見通し

や「運動会」などの行事や活動を継続していくことが困難となり、その結果、人と人のつながりが希薄化することが心配されます。それにより、例えば、いざ災害が発生した際、お互いの助け合いができなくなるなどの恐れがあります。また、交流機会が少なくなれば、高齢者が家に閉じこもることになり、介護や医療の負担が増えることにもつながりかねません。

また、農地や用排水路を管理する「担い手」がなく、農地が荒れたり、空き家・廃屋が増加するなど農家、非農家を問わず生活環境が悪化する恐れがあります。